

平成29年度第2回外洋常任委員会 議事録

日時：平成29年6月17日（土）16：30～17：40

場所：岸記念体育館 日本スポーツマンクラブ

出席者：（理事）

坂谷定生常務、菊池邦仁、宇都光伸、中澤信夫、平松隆、平井昭光、
馬場益弘、大島茂樹

（委員会）

ルール委員会外洋規則小委員長 大村雅一

外洋安全委員長 大坪明

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

（順不同、敬称略） 計11名

1. 委員長挨拶

坂谷常務：植松副会長が本日は欠席ですが、よろしくとのことでした。本日は事項書に沿って進めたいと思いますのでよろしく。

2. 議題

・ジャパンカップ2017現状報告について

平松：レースの日程は8月7日（月）から9日（水）の3日間はインスペクション。10日（木）から13日（日）がレースとなる。

エントリー料は一艇50万円、11艇で締め切としたところ、11艇がエントリーし、締め切った。

大会組織は資料のとおりだが、後援は国交省、スポーツ庁、海上保安庁、三浦市である。

三浦市以外は承認が取れているが、三浦市はこれから承認をとる。

6月9日（土）に実行委員会を開催した。

参加艇リストや、必要書類等をHPにUPする予定。

・オリンピック応援フラッグリレーについて

菊池：「弥勒」が大洗からいわきに運び、6月4日に「飛輪」に引き渡すセレモニーが行われた。

セレモニーにはいわき市長が出席し、読売新聞、いわき民報、福島民報が報道した。その後の予定は「飛輪」が仙台までリレーし、その後は「青函レース」に間に合うように函館に運ぶ予定。

レースで函館から、青森に運ぶことを考えているが室蘭までのレースもある。

坂谷：前回の常任委員会で、全体計画を立ててから詳細計画を決めることになっている。

2020年まで時間があるのでまずは函館まで運び、その後のルートについては9月末

に開催される団体長会議で意見を聞き決めたい。

また、フラッグは1ルートではなく3つくらいのルートを考えている。

西のルートは来年の沖縄レースを利用することも考えられる。

菊池：レース以外だとスケジュールが難しい。

レースの前夜祭や表彰式に合わせてやった方がやり易い。

宇都：九州駅伝レースの案が出ているので、それを利用することも考えられる。

坂谷：9月の団体長会議で相談する。

- ・ライフジャケット問題におけるその後の経過について

坂谷：大村さんに国交省と交渉してもらっている。

国交省から適用除外が出されたので、内容について外洋艇推進グループで整理していく。

大村：国交省のホームページでは分かりづらいので、資料を作成した。

資料にはOSRが明記されている。保安庁を意識して作成した。

大坪：安全委員会の意見としては資料の内<内容>の項目にある「個人用浮揚用具は、外洋特別規程またはJSAF加盟クラス協会で規定されている規格のもの」を削除してもらいたいということです。

また、詳細を海上保安庁などに確認すればダメ出しになりかねない。

大村：外洋艇とレース運営等の艇の記載を分けて整理してみる。

小型ヨットのレースの運営艇を含めるか検討して、分かり易いように作成する。

坂谷：作成したものを常任委員会に流して欲しい。全員が共通認識を持ってまとめたい。

- ・その他（オリンピックショーケース）

平松：ショーケースの外洋のレースはどのようになっているか？

坂谷：副会長命で鈴木一行さんが担当し、外洋の提案書を作成したが、JSAFにおいてもこれから検討に入るところで、まだ提案の段階で具体的なことは決まっていないうのが現状だ。WSから新たな提案が来てるので、現在それに対しカイトと外洋をまとめた形でWSに返答する作業を行っている。

以上。

文責：鈴木保夫